

学年	3年			
	課題分析	授業改善策	改善状況	
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文には意欲的に取り組む。 ・事柄の順序を考え、段落を意識して文章を書くことは不十分である。 ・漢字の習得が不十分な児童が多い。 ・こそあど言葉の使い分けの習得がまだできていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く場合、組み立て表を用い、書くことを整理し書くように指導する。 ・物語文では、場面の移り変わりを表にまとめ内容を理解させる。 ・説明文では、段落ごとに内容を理解させ、文章全体の理解につなげる。 ・日常的に漢字を活用させる。漢字の習得、音読等においては、家庭との連携を図る。 ・こそあど言葉が何を指すか確認する。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・資料活用の技能が十分に身に付いていない。 ・児童が問題解決型の学習形態に慣れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活との関連性を意識させる。 ・資料を精選して提示する。 ・児童の生活経験や既習事項から疑問がうまれるような導入を工夫するとともに、学習したことを自分たちの生活に結びつけて考えられるように促す。 ・見学、体験を通してわかったことを整理していく。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・乗法の計算は十分に定着しているとは言えない。 ・あまりのある除法の理解ができていない児童が多い。 ・長さ、時間等の感覚がない児童が多い。 ・文章題を読み取る力や図を使って思考する力には個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乗法を繰り返し授業の中での復習の時間を入れる。 ・算数的活動を充実させ量感を育てる工夫をする ・少人数指導で5展開とし児童の学習状況に合わせた適切な指導ができるようにする。 ・計算をするだけでなく、図や言葉で表して説明をする問題解決学習を多く取り入れていく。 ・練習問題を解く時には既習事項を振り返るように促す。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験には意欲的に取り組む。 ・動植物に対する興味・関心が高い児童と苦手な児童の差がある。 ・観察の技能が低い。 ・物理的内容の生活体験が乏しく、実験の結果からわかることをまとめる力がまだ弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験を取り入れ、観察の視点を明確にし、ただのスケッチにならないように指導する。 ・問題→予想→実験→結果→まとめの学習形態を繰り返すことで問題解決的思考力を高める。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に活動しているが、自分自身を解放して表現することが苦手な児童が多い。また、リコーダー学習の取組が遅れたため、技能の定着が図れていない。 	<p>基礎基本を大切に、毎時間決められたパターンで導入を行い、技能の定着を図る。題材ごとの発表会を行い、前に出て発表する場面を増やしていく。</p>		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に活動できている。すぐに発想できる児童、時間がかかる児童と個人差があるので、個々の声かけが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中のルールや自分のやるべきことを意識させた活動を身に付けさせる。様々な表現方法の素材を経験させ個性的で伸びやかな活動ができるようにする。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に対する意欲は高いが新しい運動に取り組もうとすると弱腰になる児童が多い。 ・運動経験が乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できた喜びを味わわせる。 ・互いに賞賛し合える関係をつくる。 ・個人の運動量を確保するよう努めるとともに、接触の少ない学習形態を工夫する。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に活動している児童が多いが、ALTの発音を聞いて反復することが難しい。積極的に声を出して発音の練習ができるよう声かけが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が進んで発音し、児童が安心して発声できる環境を作る。 ・児童が「話したい」「覚えたい」と思えるよう、外国語に親しませる。 		